

淡路花みどりフェア SDGs 国際シンポジウム ～地域の豊かな自然が織りなす景観を未来へ～



淡路花みどりフェア2025 アンバサダー

兵庫県出身

HANNA(ハンナ)

秋元康総合プロデュースの11人組アイドルグループ「WHITE SCORPION」のセンター。応募者約1万人のIDOL3.0 PROJECTオーディションを経て誕生し、2023年12月デビュー。

✕ HANNA_whsp

📷 hanna_whsp_ig



WHITE SCORPION



【日時】**2025.3.20** (木) (祝)

【受付】10:00～

【開会】10:45 【閉会】13:00

【会場】淡路夢舞台国際会議場

【定員・費用】400名・無料

【同時通訳】

日 ↔ 英

プログラム



- 壇上花： 山口 佳風（いけばな小原流研究院 講師）
歓迎の演奏： 渡辺 剛（花みどりフェア MUSICVISOR）
「愛の挨拶」エドワード・エドガー 作曲
「TWIN ARROWS」「WALKIN' TOMORROW」渡辺 剛 作曲
- 歓迎挨拶： 齋藤 元彦（淡路花博25周年記念事業実行委員会名誉会長・兵庫県知事）
- 開会挨拶： 石村 健
（淡路花博25周年記念事業実行委員会委員長・〔一財〕淡路島くにうみ協会理事長）
- 第一部： 基調講演「シンガポール植物園の歴史（SDGsの取組み）」
ティモシー・アタリッジ（シンガポール植物園植物研究ディレクター）
- 第二部： パネルディスカッション「SDGs時代の景観形成に向けて」
- ファシリテーター： 中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館名誉館長）
パネリスト：
・石丸 京子
（兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター生物多様性コーディネーター）
（五十音順）
・大野 暁彦（名古屋市立大学大学院芸術工学研究科准教授）
・柴田 昌三（兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長）
・島田 智里（NY市公園局シニアGISディベロッパー & アーバンプランナー）
・ティモシー・アタリッジ（シンガポール植物園植物研究ディレクター）

壇上花の紹介



山口佳風
いけばな小原流研究院 講師
公益財団法人日本いけばな芸術協会特別会員
佳風（カルチャー教室遊翠）代表講師

小原流いけばなに関する高い技術と造詣を家元に認められ、代行資格をもつ「いけばな小原流研究院」講師の一人として、全国144支部で会員の指導にあたる。

文化庁委託事業である「伝統文化こども教室」では、平成20年より指導に携わり、子供たちに人と自然の共生の在り方を伝えている。



歓迎の演奏



渡辺 剛 : Violinist/花みどりフェア MUSICVISOR

東京芸術大学音楽学部器楽科卒。在学中に「Gクレフ」でデビュー。1990年NHK紅白歌合戦に白組で出場。映画音楽の監督や演劇、ドラマ、ミュージカル等、様々なアーティストのサポート。2023年世界水泳福岡で乾友紀子のASソロフリー曲を演奏、金メダル獲得に貢献。現在、加藤登紀子バンドメンバーとして活動中。(2006年より)

シンポジウム概要



我が国では、大規模花壇や華やかな修景整備が多いが、SDGsの観点から、世界では生物多様性に配慮した自生種・在来種による修景が主流となりつつある。また、我が国でも「OECM」や「30 by 30」への登録等、生物多様性への理解、関心が高まりつつある。

そこで、世界の潮流やその意義を、修景の第一線で活躍する専門家により議論し、今後、我が国が目指す方向性を提言する。

基調講演



ティモシー・アタリッジ (植物・菌類学博士) シンガポール植物園植物研究ディレクター

熱帯アジアにおける植物の多様性が専門で、積極的な周知活動を行っている。主な研究・活動分野は、木本性双子葉植物(含サクラソウ科、イカシ科、ラムナ科など)の発見、保存評価やハンドブックの出版、植物の同定と分類法に関する講義、植物標本の命名等を中心としている。

パネルディスカッション



ファシリテーター

中瀬 勲（農学博士）
兵庫県立人と自然の博物館名誉館長
兵庫県立大学名誉教授

（社）日本造園学会会長等の学会役員、兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長、財務省独立行政法人評価委員会臨時委員、兵庫県環境審議会委員、（財）兵庫県高齢者生きがい創造協会理事等と共に、全国トンボ市民サミット実行委員長、阪神グリーンネット事務局長など震災復興のまちづくりやNPOなどにかかわる。（社）日本造園学会賞、みどりの学術賞、河川功労者表彰、兵庫県功労者表彰（県勢高揚）等、受賞歴も多数にわたる。

パネリスト（五十音順）



石丸 京子 博士（生物産業学）
兵庫県立尼崎の森中央緑地パークセンター生物多様性コーディネーター

阪神・淡路大震災後、地域性苗だけの植栽により、100年かけて「生物多様性の森づくり」に挑戦している尼崎の森中央緑地において、様々な環境学習プログラムや学校、企業への森づくり講座などを行っている。森づくりに関わる職員やボランティアにその意義や手法を伝承、地域住民に生物多様性保全への理解を広げている。

大野 暁彦 博士（農学）
名古屋市立大学大学院芸術工学研究科准教授

SfG landscape architects Inc.代表取締役。登録ランドスケープアーキテクト。2009年に文化庁新進芸術家派遣制度にて渡蘭。国内外で住宅から大規模開発、駅前広場などの土木空間まで多様なランドスケープ設計に携わる。岐阜において小規模ながら圃場を運営し、関わるプロジェクトサイトで採取した種子を育苗し設計した空間へ戻していく活動を行う。



柴田 昌三（農学博士）
兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長、京都大学名誉教授

造園学、緑化工学、景観生態学、森林育成学、竹類生態学等を専門に我が国の景観研究を先導している。里山や竹林の再生と資源管理及び資源の新たな利用に関する研究を行い、二次的自然の再生の重要性を訴えている。また、都市域における緑地がもたらす猛暑や豪雨に対する環境緩和機能や生物多様性保全機能などについても研究を行い、緑地管理のあり方を考察している。

島田 智里
ニューヨーク市公園局シニアGISディベロッパー&アーバンプランナー

米国ニューヨーク州マンハッタン区長室や建築会社を経て、2009年よりニューヨーク市公園局に勤務。主にGISを利用した分析を通じた公園、都市緑化に関する事業に従事。2012年にアメリカ都市計画学会ニューヨーク支部経済開発委員長に就任。

